

十五夜（中秋の名月）

十五夜は、旧暦の毎月15日の満月をいいますが、今では一般的に旧暦8月15日の夜を指します。旧暦8月の十五夜は一年でもっとも美しいとされており、「中秋の名月」とも呼ばれています。平安貴族が中国伝来の月見を取り入れ楽しむようになったことが始まりとされ、月見が庶民にも広がると、秋の収穫物を供えて実りに感謝する行事として親しまれるようになりました。十五夜は芋類の収穫祝いを兼ねているので「芋名月」とも呼ばれています。

十五夜のお供えもの

お供えものとして、里芋料理や月見団子を用意し、食べる前に窓辺に置いてお月さまをおがみ、感謝の気持ちを表します。

- ◆すすき：神様がおりてくる目印で依りどころ
実りを迎える稲穂に見立てて飾ります
- ◆月見団子：満月に見立てたお団子を十五夜にちなんだ15個、
またはその年の満月の数を供えます
- ◆収穫物：季節の野菜や果物を盛ります
ブドウのようなツルものは、お月さまとのつながりが強くなるといわれています



月の模様の例え方

月の模様の明るい部分は山のようにデコボコした高地で、暗い部分は平らな低地です。この模様は世界中で様々な形に見立てられていますが、日本では昔から「餅をつくうさぎ」として親しまれています。これには月のうさぎの伝説が関係していて、うさぎがついている「餅」には、「これから美味しい食べ物がたくさんとれますように」という豊かな実りへの願いが込められています。



日本：餅をつくうさぎ



アラビア：ほえるライオン



南ヨーロッパ：大きなハサミのかに



その他、中国では薬草をひくうさぎに、ドイツでは薪をかつぐ男に、東ヨーロッパでは女性の横顔に、北ヨーロッパでは本を読むおばあさんに、カナダ先住民はバケツを運ぶ少女に例えられています。

お月見をしよう



今年の十五夜は9月25日（金）です。
十五夜の日には、スキヤキやお団子、季節のフルーツなどを窓辺にお供えして親子で空を見上げてお月様を眺めてみませんか。
月の陰影がどのような形に見えるか親子で想像して話してみるのも楽しそうですね。